

中央大学 2026 年度一般選抜

【出題の意図】

試験日	2026 年 2 月 9 日
学部・試験方式	5 学部共通選抜
科目	世界史

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

設問 I

【出題の意図】

2025 年の新ローマ教皇の誕生を機に、歴代の教皇を通して現代までの世界史を概観して、総合的かつ多角的に問う設問を設けた。設問2の問 1 では歴史を立体的にみる観点から、五本山の位置を問う地図に関する問題を出題した。設問2の問 9 では、問題文からヒントを読み取り、基本的知識を発展的に利用してユリウス暦とグレゴリウス暦のズレを計算する問題も設けた。

設問 II

【出題の意図】

考古学者たちが 100 年以上にわたって探し続けてきたエジプト王トトメス 2 世の墓が見つかったとの 2025 年の考古学的発見の一つを軸に、古代エジプト史の中王国時代末期から末期王朝までの内容を多種多様な角度からアプローチできるかを問うことを主眼に出題した。例えば、設問2の問 3 は、「写実性豊かなアマルナ美術」という文字知識を実際の画像において実用化できるかを問うた。さらに設問2の問 5 でも、宗教的分野も含め、古代エジプトの文化を俯瞰的に捉えられるか、否かの設問を設けた。

設問 III

【出題の意図】

モンゴル帝国(大モンゴル国)の元を舞台に展開された、西欧や日本や周辺地域との関係や紙幣に焦点を当てた問題を設定した。日本に関しては、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えるとの視点から、例えば設問 1 の問2では、元寇の際に元軍が用いた陶器に火薬や鉄片を入れて炸裂させた「てつほう」を問い、設問2の問4ではマルコ・ポーロの『世界の記述』において日本がどのように記述されているか、原文訳の中から選択する設問を出題した。

設問 IV

【出題の意図】

第一次世界大戦期から戦後にかけてのアメリカ外交の転換を、史料読解を通じて多面的に理解できているかを問う問題構成となっている。参戦決定の背景、十四カ条・国際連盟構想、上院における批准否決の過程を具体的事実と関連付けて把握できるか、ボラー演説から孤立主義と国際主義の対立という外交理念の構造的問題を読み取る力があるかを確認する設問となった。また、ワシントン体制など同時期の対外政策も踏まえ、アメリカ外交の連続性と変化を総合的に考察する力を測る意図を持って出題した。